

2015年度 事業報告書

自 2015年4月1日

至 2016年3月31日



特定非営利活動法人 開発教育協会 (DEAR)

2015年度のトピックス

- 第 33 回全研は北海道大学で開催！
「市民性を育む開発教育」を
テーマに **194 名**が参加。
- **認定 NPO** を目指し、**175 名もの
方からご寄付**をいただきました。
本認定の要件に該当する寄付は
目標 2 年間で 200 件に対し、139 件！
- **60 件・177 回講師を派遣。**
延べ参加者数はおよそ **6,000 人**！
- 教材『パーム油のはなし』が消費者教
育教材資料表彰で**優秀賞**として表彰さ
れました！
- **売上 No.1 教材**は、『ワークショップ
版・世界がもし 100 人の村だったら』。
849 冊販売！
- 新教材『**18 歳選挙と市民教育
ハンドブック**』を発行！好評です。
- 「**ソーシャル・アクション・
クラス**～自分をソーシャルにする開発
教育ワークショップ」を初開催！
- **教材体験フェスタ 2016**には、
全国各地から関係者を含め **251 名**が参
加。今回も満員御礼！
- 2013～2017 年度**中期重点事業 3 年
目**の活動を実施し、**中間評価**をおこ
ないました！



第 33 回開発教育全国研究集会 in 北海道



消費者教育教材「優秀賞」として表彰されました



今回も満員御礼「教材体験フェスタ 2016」

1. はじめに ～ 2015年度を振り返って ～

国内外の大きな動きの中で

2015年9月に国連で「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、2030年までのグローバルな開発目標である「持続可能な開発目標(SDGs)」が発表されました。

この「2030アジェンダ」の宣言の部分では、世界の貧困、不平等、自然災害、紛争、気候変動などの様々な問題が未だ解決されていないことが指摘され、15年後にそれらが解決された世界をつくることを目指し、「誰一人取り残さない」ことが述べられています。

そのような問題に取り組んでいくために、私たちはまず、それらの問題がなぜ起きているのかを考え、現在のあらゆるシステム(経済、政治、社会、教育など)や仕組みを見直していく必要があると思います。そのための開発教育の役割は大きいと考えています。

国内においては、今年度大きく動いた安全保障政策や教育政策に関しては、開発教育の推進に大きく関係する事柄であり、注視しています。安全保障政策については、国会前に多くの市民が集まり、自分の言葉で意見表明をする動きが注目されました。

また、2015年6月の公職選挙法の改正により、2016年7月の参議院選挙より18歳選挙権が実現することになりました。DEARは、若者が一市民として社会や世界の課題に関わっていけるような市民性を身につけることを目指した市民教育のための手引書を作成しました。

さらに、スーパーグローバルハイスクール(SGH)などに代表される、「グローバル人材」の育成についても、学校や地域との協働の中で、単にグローバル社会を生き抜く競争力を持った人材ではなく、多様な人と協働し、公正で持続可能な社会づくりを担う「地球市民の育成」こそが重要であることを提案しています。

3年目を終えた中期計画

2015年度は、中期計画3年目に当たり、中間評価を実施し、成果と課題を整理しました。

詳細は別紙、「中期重点事業中間評価」をご覧ください。

<中期重点方針>

1. 現在の開発のあり方やグローバル化がもたらす不正を構造的に捉え広く発信する。
2. 「世界は変えられる」という思いに基づき行動する人を増やす。

重点事業1では、グローバルな課題の背景にある構造的な問題を分かりやすく提示し考えるきっかけをつくる「ハンドブック」の作成を進めました。

重点事業2では、公正な社会づくりに一人ひとりが参加するきっかけを学びの場から生み出す「ソーシャル・アクション・クラス」を開催し、参加者のエンパワメントにつなげることができました。

重点事業3では、身近な開発問題や賛否両論ある問題について対話し学ぶ場を広げるための、「学びあいフォーラム」のあり方について、コーディネーターチームを編成し、研修プログラムの準備を進めました。

重点事業4では、政府による「ESD国内実施計画」の作成にあたり、DEARからも積極的に意見の提出を行い、実施計画に反映することができました。

より参加を重視した事業運営

また、年度当初に計画した5つの領域「Ⅰ. ネットワーク事業」「Ⅱ. 実践・研究事業」「Ⅲ. 情報・出版事業」「Ⅳ. 研修・講座事業」「Ⅴ. 政策提言事業」においては、概ね事業計画通りに各種事業を実施することができました。

参加を重視するという点では、これまで以上に参加の場を保障するため、全国研究集会や教材体験フェスタにおいて難聴者のための要約筆記やIPトークによるノートテイク、ガイドヘルプ、託児ボランティアを導入するなど、全ての人が安心して参加するための学びの場づくりをすすめています。また、視覚障害を持つ会員には、会報や機関誌のテキストを毎回データで送付しています。このような取り組みを広く伝え、他団体でも参考にさせていただくために、『「みんなの参加」のためのDEARの取組』(仮)についてまとめ、今後ウェブでも発信していく予定です。

まず、4つの各中期重点事業について、ご報告いたします。尚、各事業にかかわったメンバーについては、p.15～16をご覧ください。

重点事業 1. 「グローバル化と開発問題」研究会の実施

グローバルな諸課題を開発教育的な視点で捉え、その視点を提示することを目的に研究会「グローバル化と開発問題」研究会を立ちあげ、成果物である「ハンドブック」(仮称)の発行に向け、以下のとおり研究会活動を実施した。

第 15 回研究会以降は、研究会メンバーで成果物の執筆作業を進め、2016 年度の発行をめざしているところである。

- 第 10 回研究会(2015 年度第 1 回研究会)
日時:2015 年 4 月 10 日(金)15:30~18:30
内容:成果物の目的、対象に沿って各章の内容構成を確認した。
- 第 11 回研究会(2015 年度第 2 回研究会)
日時:2015 年 5 月 15 日(金)13:00~15:30
内容:各章の内容構成について検討した。
- 第 12 回研究会(2015 年度第 3 回研究会)
日時:2015 年 7 月 3 日(金)14:00~18:00
内容:研究会のゲストとして塩原良和氏(慶應大学法学部教授)を招へいし、今日の多文化共生を巡る問題状況についてご講義いただいた。その後、各章の内容構成を検討した。
- 第 13 回研究会(2015 年度第 4 回研究会)
日時:2015 年 9 月 1 日(火)13:30~17:00
内容:各章の原稿案をもとにその内容について検討した。
- 第 14 回研究会(2015 年度第 5 回研究会)
日時:2015 年 10 月 9 日(金)15:30~18:00
内容:引き続き、各章の原稿案をもとにその内容について検討した。
- 第 15 回研究会(2015 年度第 6 回研究会)
日時:2015 年 11 月 20 日(金)15:30~18:00
内容:引き続き、各章の原稿案をもとにその内容について検討した。

重点事業 2. 公正な社会づくりへ参加するための アクションの支援

公正な社会づくりに向けた多様なアクションの可能性を示し、アクションの意識喚起につながる活動を実施するために、身近なアクションの事例や方法を収集し、『アクション・ハンドブック(仮称)』の作成を計画。検討会議を 8 回実施したほか、評議員会や常任役員会でも議論した。

また、9~12 月にかけて、ハンドブックに掲載予定の内容を元に「ソーシャル・アクション・クラス」という連続講座を開催した。ハンドブックの発行は 2016 年度を予定している。

- 第 5 回検討会議
日時:5 月 8 日(金)19:00~21:00
内容:アクション項目の精査。
- 第 6 回検討会議
日時:2015 年 5 月 27 日(水)19:10~21:00
内容:各自の経験共有、ハンドブック文案の持ちよりと検討。
- 第 7 回検討会議
日時:2015 年 6 月 24 日(金)19:10~21:00
内容:メンバーが参加した国際会議・研修の報告、アクションを喚起する要素の確認。
- 第 8 回検討会議
日時:2015 年 7 月 3 日(金)19:30~21:30
内容:講座企画案の検討。
- 第 9 回検討会議
日時:2015 年 7 月 30 日(木)19:20~21:20
内容:チームの方向性の確認、講座内容検討。
- 第 10 回検討会議
日時:2015 年 8 月 28 日(金)19:00~21:00
内容:講座内容検討。
- 第 11 回検討会議
日時:2016 年 1 月 29 日(金)19:20~21:30
内容:講座のふり返り。
- 第 12 回検討会議
日時:2016 年 3 月 22 日(火)19:10~21:30
内容:講座のふり返り。来年度事業計画。

●ソーシャル・アクション・クラス～自分をソーシャルにする！開発教育ワークショップ～

第1回：10月16日(金) 19:00～21:00

仲間を知ろう、どんなソーシャルアクションに興味ある？

第2回：10月30日(金) 19:00～21:00

人がソーシャルアクションをするのはどんなとき？自分たちは？

第3回：11月13日(金) 19:00～21:00

作戦会議…支援系、社会のしくみ系、コミュニティ系、ライフスタイル系、どれからやってみる？ ソーシャル・アクション・クラス

第4回：11月27日(金) 19:00～21:00

グループ活動。作戦実行。

第5回：グループごとに日時、場所も自由に活動

第6回：12月12日(土) 13:00～16:00

ふり返り

参加者：16名



重点事業3.

**国内外の開発問題を多様な人たちと話し合う
場づくりの支援**

身近な開発問題や賛否両論ある問題について対話し学ぶ場が広がるように、そのためのファシリテーター研修や教材(ツールブック)作成の企画・検討を実施した。具体的には、本事業コーディネーターチームを編成、コーディネーター会議を6回開催。2016年度から「持続可能な地域・社会づくりのための学びあいフォーラム(「学びあいフォーラム」)」を実施し、地域の教育関係団体とともに、研修等を交えながら、実践をとおして持続可能な地域・社会づくりを後押しする学習のあり方を明らかにしていくこととなった。併せて、「学びあい

フォーラム」のための研修プログラムとツールブックを作成するとともに、同フォーラムに参加する地域の「パートナー団体」を決定した。

なお、本事業は地球環境基金からの助成金により実施した。

●第1回コーディネーター会議

日時：2015年7月23日(木) 18:00～20:00

内容：本事業のねらいとパートナー団体の想定について検討した。

●第2回コーディネーター会議

日時：2015年9月5日(土)14:30～6日(日)15:00(1泊2日)

内容：本事業の企画内容、年間計画、必要な教材(ツールブック)の内容を検討した。

●第3回コーディネーター会議

日時：2015年9月26日(土)18:00～19:30

内容：中期重点事業中間評価会における本事業企画に対する指摘を受け、企画内容の改善にむけ議論。2016年度の実施事項の方向性を決定した。

●第4回コーディネーター会議

日時：2016年3月4日(木)17:30～18:45

内容：3月5日(土)～6日(日)に開催した「市民による教育ネットワーク会議」において「学びあいフォーラム」の紹介とパートナー団体としての参加を呼びかけるため、その準備会合を実施した。

●第5回コーディネーター会議

日時：2016年3月6日(日)15:00～17:00

内容：パートナー団体の決定に向け、各団体の状況や以降の実施スケジュールについて確認した。

●第6回コーディネーター会議

日時：2016年3月27日(日)15:30～19:00

内容：「学びあいフォーラム」におけるアウトプット、アウトカム、インパクトを確認するとともに、コーディネーターチームがどのような形でパートナー団体をサポートすることができるか、その方法を検討した。

重点事業 4. 教育政策に関する調査・ネットワークづくり

持続可能な開発目標 (SDGs) の中の教育目標を考える世界教育フォーラム (WEF) に理事や事務局が参加し、提言活動を行った。さらに、日本政府が策定する「ESD に関するグローバル・アクション・プログラム」について、円卓会議に代表理事が参加し、提案書を提出したり、パブリックコメントを提出したりした。

3 月には「ESD ステイクホルダーミーティング 2016」を開催し、関係省庁に市民の声を届けるとともに、市民自らの「グローバル・アクション・プログラム」の策定・議論を行った。

<実施概要>

1) 世界教育フォーラムへの参加

2015 年 5 月に韓国・仁川で開催された「世界教育フォーラム」に、上條代表理事、湯本副代表理事、三宅理事、中村事務局長の 4 人が参加した。

会議の前に、日本の関係省庁に対して NGO からの提案を行った。会議直前に行われたアジア南太平洋基礎成人教育協会 (ASPBAE) 準備会合や NGO フォーラムにおいて本会合での効果的な働きかけを議論した。本会合では各国政府や NGO と教育に関する分科会などで意見交換を行ったり、政府に対して「仁川宣言」へ意見を反映させる提言活動を行った。

会議の結果は、会員総会で報告するとともに、機関誌にも報告を掲載した。

●世界教育フォーラム (WEF)

日時: 2015 年 5 月 18 日～22 日

(内 NGO フォーラム 5 月 18 日～19 日)

場所: 韓国・仁川

主催: UNESCO、韓国政府

共催: UNDP、UNFPA、UNHCR、UNICEF、UNWOMEN、WORLD BANK GROUP



2) 「ESD 国内実施計画」への働きかけ

政府の「ESD 国内実施計画」の協議を行う「持続可能な開発のための教育円卓会議」が 2 回開催され、上條代表理事が委員として出席した。その会議に合わせて、提案書を提出するとともに、円卓会議についての情報共有をし、広く傍聴を呼びかけた。

また、「ESD 国内実施計画」への意見提出やパブコメを積極的に呼びかけることを行った。

その結果、GAP の目的の明記や、「環境教育」が ESD に置き換えられるなど、複数の意見が反映された。

●第 1 回 ESD 円卓会議

2015 年 6 月 12 日 於: 文部科学省

「ESD に関する提案書」の提出

●ウェブにてパブリックコメントの呼びかけ・提出

(2015 年 12 月 18 日～2016 年 1 月 17 日)

●第 2 回 ESD 円卓会議

2016 年 2 月 8 日 於: 虎ノ門 SQUARE 4 階会議室

3) 「ESD ステイクホルダーミーティング 2016」の開催

日本政府が策定した「持続可能な開発のための教育に関するグローバル・アクション・プログラム (GAP)」実施計画が策定された。この実施計画をはじめとする ESD をめぐる国内外の動向や持続可能な開発目標 (SDGs) など関連する世界の取組について、NGO/NPO 関係者、学校関係者、政府機関関係者等が一同に会し、意見交換を行った。ESD に関連する政策や方針、実践に関する情報を共有し、市民が主体となり、各分野における「グローバル・アクション・プログラム」を検討することができた。

<概要>

日時: 2016 年 3 月 5 日 (土) 13:00～17:30

会場: JICA 横浜

協力: (公財) 公害地域再生センター (あおぞら財団)

助成: 地球環境基金

後援: JICA 横浜

参加者: 約 70 名

2. 各種事業報告

I. ネットワーク事業

ネットワーク事業は、国内外の開発教育及びESD関係者と実践経験を共有し、開発教育の普及、深化をはかることを目的としている。今年度は、ネットワークを土台に、何をめざすか、政策提案への戦略も含めて課題を共有した。

1)「担い手」連携強化事業

地域の開発教育の担い手とのネットワーク維持・強化につとめた。

3月5日～3月6日の日程で、JICA横浜(神奈川県横浜市)にて「市民による教育ネットワーク会議」を開催。参加者は「ESDステイクホルダーミーティング」にも参加することとし、開発教育・ESD実践者として自らの実践をより広い視点から振り返り、幅広い実践現場の参加者と共有できるような内容とした。具体的には、参加者間でお互いの実践を共有した後、「これからの学校教育でESDを実践するために考えたいこと、ESD実践のための教員研修」「Problem-Based Learning(PBL)／学校と地域とのつながり強化について」「学び合いフォーラム」「地域ESDの人的支援ネットワークの方向性」「公害の教材化、マイノリティとESD」「開発教育的ジェンダーの学び」「若者の居場所とESD」の7つのディスカッションテーマにわかれ、議論を深めた。

その後、分科会で議論された課題のうちいくつかについては、8月の開発教育全国研究集会の自主ラウンドテーブルでの発表を目指すといった具体的なアクションが提示され、新たな展開を始めようという参加者間のネットワークの芽も見られた。

<概要>

市民による教育ネットワーク会議

日時:3月5日(土)19:30～21:30、6日(日)9:00～14:00

場所:JICA横浜

協力:(公財)公害地域再生センター(あおぞら財団)

助成:地球環境基金

後援:JICA横浜

参加者:約30名

2)海外ネットワーク事業

①ASPBAEへの参加

DEARが団体会員になっているアジア南太平洋基礎・成人教育協会(ASPBAE)の理事会が2016年2月15日～18日にモンゴルで開催され、当会上條代表理事が出席し、アジア太平洋地域のNGOと積極的に情報共有を行った。

5月の世界教育フォーラムでは、ASPBAE主催の事前会合において、他の会員団体との情報共有、意見交換を行い、本会合における政策提言の協力を行った。

また、11月には、BLDC(Basic Leadership Development Course:若手のためのリーダーシップ研修)がベトナムで開催され、上條代表理事が講師として参加し、職員の星久美子が参加者として参加した。



II. 実践・研究事業

開発教育の研究実践活動の質的な深化や向上に向けて、関連する教育的課題や今日的課題などに関する調査研究活動を行った。機関誌は「平和」をテーマに特集を組んだ。全国研究集会は「市民性」をテーマに開催した。

1)「開発教育研究会」

①「グローバル化と開発問題」部会

重点事業1(p.2)を参照

②「開発教育アーカイブ」部会

これまでの調査の成果をまとめて機関誌62号へ「DEAR設立に至る開発教育のルーツを探る」のタイトルで投稿した。

2) 機関誌『開発教育』の編集発行

機関誌『開発教育』第 62 号を発行した。特集は「『平和』に向き合う開発教育」とし、現在の平和が格差と抑圧の構造の上に成り立っていることを認識し、開発教育の立場から「本当の平和」を考えることをねらいとした。

<概要>

タイトル:機関誌『開発教育 62号』

特集:「『平和』に向き合う開発教育」

発行:2015年12月1日

発行部数:900部

「機関誌を読む会」

尚、今回初の試みとして、「機関誌を読む会」を開催した。特集の執筆者の1人、竹内久顕氏を招き、参加者の感想や質問、より深めたい点などを共有し、議論を深めた。

<概要>

日時:2016年3月15日(火)19:00~21:00

場所:富坂キリスト教センター1号館

講師:竹内久顕氏(東京女子大学)

参加者:8名

3) 第33回「開発教育全国研究集会」の開催

日程:8月8日(土)~9日(日)

会場:北海道大学

テーマ:「市民性」を育む開発教育ー尊重と共生の社会へ

参加者数:277名(関係者を含む)

内容:ワークショップ(6コマ)、パネルトーク、自主ラウンドテーブル(16コマ)、ポスターセッション(20企画)、分科会(6コマ)を通して、開発教育・ESD・国際理解教育等に関わる実践者の経験交流をおこなったほか、テーマである「市民性」について意見交換を行い、考えを深めた。

研修集会翌日の10日(月)には、北海道内4か所へのエクスカージョンがオプション企画として開催され、こちらも多くの参加があった。

また、多様な参加者が参加しやすい場づくりのために、要約筆記、ガイドヘルプ等の対応を行った。詳細は機関誌『開発教育62号』を参照のこと。

尚、本研究集会は、(一財)日本国際協力システム(JICS)と、伊藤組100年記念基金の助成で実施した。



III. 情報・出版事業

新規教材等の作成・増刷、ウェブサイトや SNS を活用した情報発信を行った。また、出版物販売に関しては、ファックス DM を初めて利用した他、「ヒルマ教材総合カタログ」に一部の教材を掲載することができ、反応があった。

1) 新規教材図書の企画編集と制作発行

開発教育に関連する次のような新規の教材や図書の、企画編集や制作発行や増刷をおこなった。またそのために、引き続きその財源や出版社等との実施体制の確保に努めた。

①『豊かさってなんだろう(仮)』

2014年度に引き続き、豊かさと開発のあり方を考えることをめざした新教材『豊かさって何だろう(仮題)』の内容検討・執筆・編集を進めた。あわせて、2016年度夏の発行をめざして庭野平和財団に助成金を申請し、採用された。

②『アクション・ハンドブック(仮称)』

重点事業2(p.3)を参照

③『18歳選挙権と市民教育ハンドブック』

2016年7月から18歳以上の者が投票できるようになることを受け、従来の知識中心の公民教育や選挙に特化した主権者教育ではない、若者たちが一市民として社会や世界の課題に関わっていきけるような市民性を身につけることをめざした市民教育の教材を、上智大学と共同編集・発行した。その作成にあたり、開発教育実践者及び研究者から成る企画・編集委員会を編成、計4回の編集委員会を開催、企画・執筆・編集を進めた。

<概要>

発行:開発教育協会
共同編集・発行:上智大学総合人間科学部教育学科
発行日:2016年2月25日
版型・頁数:A4判・96頁
対象:中学生以上
発行部数:700部

④その他図書教材の編集企画・編集協力

既存の教材で在庫が少ない以下の教材の改訂・増刷発行を行った。

<改訂発行>

『フードマイレージ どこからくる? 私たちの食べ物』
2010年に発行された本教材を農水省のフリーソフト「クッキング自給率」の改訂に合わせ、データを一新し、発行した。

発行:開発教育協会
発行日:2016年2月1日
判型・頁数:テキスト A4判・44頁
対象:小学生以上
発行部数:500部



<改訂増刷>

『ワークショップ版・世界がもし100人の村だったら(第5版)』2,000部
解説を加え、データを新しくした。

2)出版物販売

当会発行の教材・図書資料を販売した他、関係団体の発行図書などを受託販売し、自己財源の強化を図った。また、「ヒルマ教材総合カタログ」に当会発行の教材・図書資料の一部を掲載し、販売することができた。

<書籍売り上げベスト5>

第1位『ワークショップ版・世界がもし100人の村だったら』	849冊
第2位『新・貿易ゲーム』	595冊
第3位『コーヒークップの向こう側』	239冊
第4位『開発教育実践ハンドブック』	225冊
第5位『写真で学ぼう!地球の食卓学習プラン10』	211冊

3)広報資料作成

①ウェブサイトの運営

開発教育ポータルサイトとしてウェブサイトでの情報発信を行った。

<2015年4月~2016年3月>

- ・191,347セッション 前年:172,169
- ・449,018ページビュー 前年:431,302
- ・2.35平均ページビュー 前年:2.51
- ・01:49分 平均サイト滞在時間 前年:01:55
- ・74.65%新規セッション率 前年:74.26%
- ・PCユーザー60%(モバイル40%)

訪問者数・閲覧数ともに毎年増加を続けている。よく読まれているのは「参加型学習」「教材」「イベント」関連のページ。イベント参加申込や会費・寄付などの支払いがウェブ経由(paypal決済)のものが多くを占めてきている。また、モバイル利用者が全体の4割を占めるようになった。

②スタッフ・ブログの運営

<2015年4月~2016年3月>

- ・4,391セッション 前年:3,596
- ・7,608ページビュー 前年:6,109
- ・1.73平均ページビュー 前年:1.70
- ・1:53分平均サイト滞在時間 前年:1:32
- ・68.87% 新規セッション率 前年:76.22%

Facebookの運用とリンクさせ、レポートを多く掲載したためか、2年にわたり減少傾向にあった訪問者数は増加した。よく読まれているのは、講師派遣レポートである。

③Facebookページの運営

2013年8月に全研広報用に開始し、9月末に公式Facebookページとしてリニューアルした。主催イベントや教材の紹介のほか、開発教育や国際協力に関連するニュースも配信している。社会課題を扱った記事や、教材・リソースに関する記事への反響が大きい。3月末の「いいね!」数:1924(前年比+721)



④メールマガジンの発行

毎月1回のメールマガジンの発行を開始し、主催事業や資料の情報を発信した。3月末現在2,760名(前年比+152名)が登録している。

⑤ツイッターの運営

2011年11月16日にツイッターを導入(アカウント名は@ngoDEAR)。イベント情報や教材関連情報を中心にツイートしている。3月のフォロワー数:616(前年比+101)

⑥資料請求者への対応

ウェブサイト上から無料で資料請求を開始した。全国から請求があり、61件(前年比+10件)。うち2名の新入会があった。

IV. 研修・講座事業

講師派遣事業に関しては、スーパーグローバルハイスクールなどの要請が増えており、単発ではなく複数回の依頼を受けることができた。また、ファシリテーター養成や学習プログラム作成など、多様なニーズに対応した。2年に一度の「教材体験フェスタ」を開催し、好評を得た。

1)講師派遣事業

政府機関・自治体・教育委員会・学校/大学・自治体国際化協会・NGOなどからの講師派遣依頼に対して、DEARの役職員等を講師として計59件172回派遣した。述べ参加者は約6,000名。依頼先は大学や高校、自治体、NGOなどが多く、内容は各種ワークショップの他、アクティブラーニング研修やファシリテーター養成や授業づくりなどの内容が多かった。スーパーグローバルハイスクール(SGH)校やスーパーグローバルハイスクールアソシエイト校からは、複数回の依頼があった。詳細は資料編を参照。



2)教材体験フェスタ 2016

今回も2年前と同様にJICA横浜を会場とし利用し、200名を超える参加があった。参加申込も開始早々に多く、締め切り前に定員に達した。

<概要>

日程:2016年3月26日(土)~27日(日)

会場:JICA横浜

後援:(独)国際協力機構

参加者数(関係者除く):236名(内、当日キャンセル:21名)

新規入会数:6名

内容:人権、援助、開発、格差、多様性などのテーマを扱った教材を計30コマ実施し、教材や進め方について学び、各現場での実施を促すことをねらいとした。参加者からは、実践的なヒントを得られた、地方でも開催してほしいという声があり、教材販売とも好評だった。また、託児室、授乳室の確保、要約筆記など、今後も参加サポートを続けていきたい。



3)各種講座

①「開発教育入門講座」

開発教育の基礎的理解を目的とした入門講座を毎月1回、計10回(8月は全研で、3月はフェスタで実施)、延べ209名の参加者を得て開催した。

10回の講座のうち4回は「特別編」として、「コーヒークップの向こう側」(5月)、「写真で学ぼう!地球の食卓」(7月/横浜YMCAと共催)、「もっと話そう!エネルギーと原発のこと」(10月)、「水から広がる学び」(1月)を実施した。

②授業づくりサークル講座

自主グループ「授業づくりサークル」が主催して授業実践を共有し、参加者自身も自分の授業を考えるセミナーを開催した。

<概要>

タイトル:「わくわくする授業をつくろう!」

日時:2016年3月13日(日)13:00~17:00

会場:富坂キリスト教センター1号館

内容:

第 1 部:授業実践報告「大豆から見えてくる私と世界とのつながり」

報告者:濱田 会美(多摩市立大松台小学校)

第 2 部:「学びの地図づくり」

参加者:10 名

V.政策提言事業

国際協力政策や教育行政に働きかけるとともに、NGO のキャンペーンに協力した。「ESD 国内実施計画」については、積極的に提案し、キーワードを追加することができた。

1)行政に対する政策提言

①国際協力政策・援助政策に対する政策提言

「開発協力大綱」に開発教育が広報とは別に項目立てされたことをきっかけに、開発教育の現状や、協働の可能性などを外務省国際協力局と協議することができた。

また、NGO-JICA 協議会において、開発教育について議論する場の必要性が挙げられ、来年度より「開発教育促進のための準備会合」を行うこととなった。

②教育行政・教育政策に関する調査・ネットワークづくり

重点事業4(p.3)参照

2)キャンペーンへの協力

①教育協力 NGO ネットワーク(JNNE)主催「世界一大きな授業 2015」への協力

学校に通えない子どもたちが世界中にたくさんいる現状に目を向け教育の大切さを世界中で同じ時期に考える地球規模のイベント。

日程:2015 年 4 月 26 日～5 月 31 日

協力内容:教員の手引の作成、助言、広報。実践者のためのプレ・ワークショップの実施。

参加者数:約7万人

②「動く→動かす」主催「15 人の 15 歳と語る! 15 年後の世界と日本～SDGs を通じて、2030 年の未来を考えよう～」への協力

2015 年に達成期限を迎えた MDGsに代わり、2030 年までのグローバルな開発目標を定めた「持続可能な開発目標(SDGs)」が 9 月末に国連で採

択されたのに合わせて、その日本国内における普及・啓発を目的として参議院議員会館で開催された。15 人の中学生が、国会議員 17 人に対し、ジェンダー、教育、エネルギーの各課題について提言し、意見交換した。当日はオブザーバーとして約 100 名が参加した。

日程:2015 年 10 月 7 日(水)

協力内容:協力校の紹介および 15 人の中学生の事前学習、当日の引率に協力。

VI.その他の事業

1)受託事業

①外務省「NGO相談員プログラム」

外務省より標記プログラムを受託し、関東圏を中心に全国から開発教育や国際協力に関する幅広い相談を受けた。出張サービスは関東圏を中心に 9 件行った。

②外務省「NGOインターンプログラム」

2014 年度より受託したプログラムの最終年だった。職員の星久美子がインターンとして育成計画に従い、OJT で研修が行われた。インターンが参加した海外プログラムについては、海外ネットワーク事業(p.6)を参照。また、年度末には、各採用団体のインターンが集まり、成果報告会が行われた。

③学研「国際理解教育教室」

株式会社学研エデュケーションが計画する「国際理解教室」で使用する国際理解プログラムの作成を受託し、プログラムの作成や、指導者の研修などを行った。

<概要>

タイトル:国際理解プログラム

テーマ 1:世界と友だち～世界の人とこんにちは

テーマ 2:世界の友だちの暮らし～違うところと似ているところ、いろいろだから楽しいね

テーマ 3:世界とのつながり:ごちそうさまの向こう側

テーマ 4:地球っ子のチカラ～大切なものが守られている世界

対象:小学校 3～4 年生

内容:各テーマに関する約 8 つの参加型アクティビティを収録

形式:冊子 DVD 付き

発行:(株)学研エデュケーション

協力:DEAR

2)外部団体との共催・協力事業

①開発教育連続セミナー2015

「平和で安心な社会を築くために～知る・対話する・共感する」

＜主管：DEAR大阪＞

(公財)大阪国際交流センター、(独)国際協力機構関西国際センターが共催する開発教育に関する基礎的理解を目的とした連続セミナーの企画・開催に協力した。

＜開催実績＞

日程：下記の通り

会場：大阪国際交流センター(大阪市天王寺区)

共催：(公財)大阪国際交流センター、(独)国際協力機構関西国際センター

協力：DEAR大阪

後援：大阪市教育委員会、大阪府教育委員会、(特活)関西NGO協議会

●第1回：8月4日(火)10:00～16:30

特別編・国際教育セミナー

教育・子ども・環境・南北問題・国際協力などをテーマに、NGO/NPO が実施するプログラムを選択し、午前・午後1つずつ体験した。

※この特別編は、(公財)大阪府国際交流財団との共催により、大阪府教職員自主研修支援【大学・専修学校等夏期オープン講座】として実施した。

DEAR大阪は「開発教育入門～手法とファシリテーション～」を実施

講師：佐藤友紀 参加者：30名

●第2回：10月18日(日)10:00～16:30

「対話型ファシリテーション 超入門」

講師：宮下和佳(認定NPO法人ムラのミライ)

参加者：30名

●第3回：12月13日(日)13:00～16:30

「メディアが語らないアフリカ」

講師：ヴァージル・ホーキンス(大阪大学大学院国際公共政策研究科)

参加者：31名

●第4回：2016年1月17日(日)13:00～16:30

「今世界で起こっていること～パレスチナ、イスラエル問題から～」

講師：丸山まり子(DEAR)

参加者：37名

●第5回：2016年2月21日(日)13:00～16:30

「防災と国際協力～クロスロードからの学び」

講師：浜尚美(神戸クロスロード研究会)

参加者：21名

②日本YMCA同盟「地球市民育成プロジェクト」

日本YMCA同盟が実施する「地球市民育成プロジェクト アドバンスコース」の内容や概要について助言し、カリキュラムの作成、運営にアドバイザーとして協力した。また5月のプレ合宿の研修にも協力した。

＜概要＞

日時：2015年5月1日(金)～3日(日)

会場：日本YMCA同盟国際青少年センター東山荘(静岡県御殿場市)

内容：歴史認識・平和構築、子どもの貧困に関する知識・経験共有、グループワーク等への協力

③APLAチョコレート教材作成への協力

NPO法人APLAの作成するチョコレートの教材についての内容や進め方、編集などに関して協力した。

＜概要＞

タイトル：『Kakao kita!(カカオ・キタ)チョコレートとパプアを知るためのワークショップ教材集』

体裁：A4判 32頁 写真はダウンロード

内容：チョコレートがどのように生産課程や、チョコレートの歴史、APLAが支援するパプアの生産者の暮らしなどを学ぶ参加型学習教材。

発行：NPO法人APLA

協力：DEAR



④あおぞら財団の教材作成への協力

(公財)公害地域再生センター(あおぞら財団)の作成する公害教育の参加型学習教材作成事業に対し、教材内容や進め方に関して協力した。

日程：2015年5月10日(日)、7月11日(土)、8月31日(月)、2016年3月1日(火)

協力内容：教材作成のための検討会議に参加し、教材内容の検討、実践への助言。

3. 組織運営に関する報告

1) 会報「DEAR ニュース」の編集発行

開発教育の関連情報をはじめ、DEARや各地の「担い手」などの活動状況を紹介することを目的とした会報を5回(4・6・8・10・2月)、各号900部を発行した。また、読者アンケートを実施し、翌年度以降の編集に反映させていくことになった。

<発行実績>

- ・第171号(発行:4月1日)
特集「八ツ場ダム問題の今後」
- ・第172号(発行:6月1日)
特集「自然エネルギーを日本の基幹電源に」
- ・第173号(発行:8月1日)
特集「戦後70年-未来のために今できる『きっかけ』づくり」
- ・第174号(発行:10月1日)
特集「市民がつくりだす社会へー日本のいま、私たちのこれから」
- ・第175号(発行:2月1日)
特集「宇都宮大学『外国人生徒入試』実施の背景と主旨」



2) 会員メーリングリスト(ML)

会員メーリングリスト(ML)は、会員サービスの一つとして、会員の自主的な情報交換やコミュニケーションを図ることを目的として1998年に開設された。現在、約400名がメンバーになっており、今年度は、開発教育に関する情報共有やイベントの告知、18歳選挙権に関する教材や授業のあり方、「市民性」に関する意見交換、などが活発に行われた。また、ML運営について意見があったことから、メンバーにアンケートを採るなどして、会員MLのあり方を見直した。

3) 認定 NPO 法人化

認定 NPO 法人化に向けて、2014年10月3日に認定 NPO の仮認定の取得を得ることができた。認定 NPO 法人となるためには、2事業年度の平均で、1年間3,000円以上の寄付を100人以上のから支援いただく必要があり、2016年3月1日から31日の1ヶ月で広く呼び掛けた結果、100名を超える方からの寄付を集めることができた。

今後は、継続的なサポーターを集めるとともに、当会主催のイベントなどの時に毎回寄付を呼び掛けるなど工夫をしていく。

4) サポーターの募集

継続的に DEAR をサポートしてくれる人を増やし、組織強化につなげるために、2014年12月よりサポーター制度(年4,000円以上の定額寄付制度)を開始した。より多くの方に支援いただくために、「DEARを支える100人委員会」を立ち上げ、過去会員や関係者に依頼の手紙などを送付し、広く支援を呼びかけた。100人委員会の方にはメッセージや顔写真を出して頂くように依頼し、ウェブサイトや会報などで紹介することで、DEAR 応援団としての顔となって頂いた。

その結果、45名の方が新たにサポーターとなって下さった。



以上

処務の概要

1) 会員に関する事項

2016年3月末現在の会員数は、次の通り。ただし、括弧内は昨年末比の数字。

正会員	団体 25団体(+3団体)
	個人 405名(-4名)
賛助会員	団体 18団体(-1団体)
	個人 234名(-7名)
	(内学生会員:29名/-6名)
<参考>	団体会員 43団体(+2団体)
	個人会員 639名(-11名)

最近10か年の会員数

■ 団体会員 ■ 個人会員

2006年度	45	674
2007年度	43	666
2008年度	44	672
2009年度	42	683
2010年度	44	692
2011年度	42	681
2012年度	40	699
2013年度	39	648
2014年度	41	650
2015年度	43	639

2) 役員に関する事項

(註:役員は個人の立場で当会の運営に参加しており、括弧内は本人の勤務先や所属先等を参考までに紹介するものです)

●代表理事

上條直美(フェリス女学院大学)

●副代表理事

湯本浩之(宇都宮大学)

●常任理事

阿部秀樹(会社員)

阿部真理子((認定NPO)IVY)

田中浩平(団体職員)

●理事

榎井 縁(大阪大学未来共生イノバーター博士課程プログラム)

斎藤 聖(高校教員)

佐藤友紀(高校教員)

田中治彦(上智大学)

筒井哲朗(一般社団法人シェア・ザ・プラネット)

三宅隆史((公社)シャンティ国際ボランティア会)

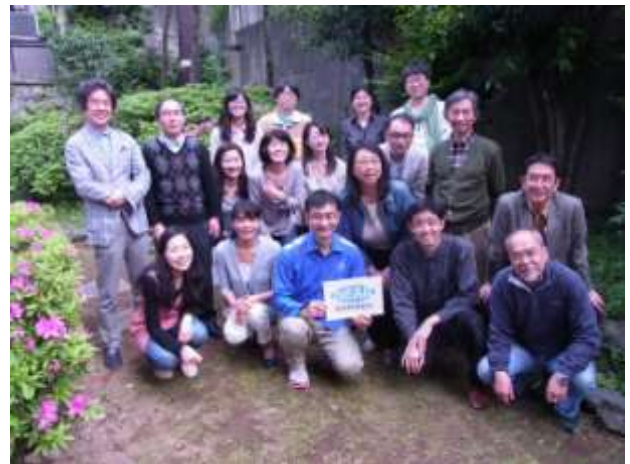
向井一朗(団体職員)

中村絵乃((特活)開発教育協会)

●監事

岩崎裕保(帝塚山学院大学)

山崎唯司(元JICA地球ひろば市民参加協力アドバイザー)



●評議員

伊藤通子(東京大学)

枝木美香((特活)アークス=仏教国際協力ネットワーク)

大江 浩((公社)日本YMCA同盟)

甲斐田万智子((特活)子ども権利センター/C-rights)

近藤牧子(早稲田大学)

重田康博(宇都宮大学)

白木朋子((特活)ACE)

田中 博(参加型評価ファシリテーター)

椿原 恵(コミュニティコミュニケーション・サポートセンター(Commu))

永田佳之(聖心女子大学)

檜府暢子(東京大学付属中等教育学校教員)
浜本裕子((学)YMCA学院高等学校)
早川信夫(日本放送協会)
林 大介(模擬選挙推進ネットワーク)
前嶋 葵((特活)コモンビート)
三輪敦子(国連ウイメン日本協会大阪)
本山 明(大学講師)
諸 英樹(ニュー・インターナショナルリスト・ジャパン)
横山由利亜((公社)日本YMCA同盟)

3) 会員総会に関する事項

2015年度定期会員総会

と き:5月30日(土)

ところ:富坂キリスト教センター1号館

<第1部> 13:00~15:00

これからのESD・地球市民性教育～「世界教育フォーラム(WEF)2015」報告会

<第2部> 15:30~17:00

2015年度定期会員総会議案

<議案審議>

第1号議案 2014年度事業報告および決算報告について

第2号議案 定款の改訂について

<報告>

①2015年度事業計画について

②2015年度予算について

<会員表彰式>

4) 理事会に関する事項

●第1回理事会

と き:5月30日(土)

ところ:富坂キリスト教センター1号館

議 案:

- 1) 各種委員会の設置および委員選任
- 2) 理事の役割分担

●第2回理事会

と き:10月17日(土)13:00~17:00

ところ:富坂キリスト教センター1号館

議 案:

- 1) 上半期事業・決算報告
- 2) 中期重点事業について
- 3) サポーター制度について
- 4) 賛同内規
- 5) 組織体制について

●第3回理事会

と き:2016年1月28日(木)19:00~21:00

ところ:上智大学 2号館会議室

議 案:

- 1) 会員メーリングリストの運用について
- 2) 賛同内規について
- 3) その他

●第4回理事会

と き:2016年3月4日(金)19:00~21:00

ところ:富坂キリスト教センター1号館

議 案:

- 1) 2015年度の事業報告・決算見込み
- 2) 2016年度事業計画
- 3) 賛同内規について
- 4) 会員メーリングリストについて
- 5) その他

●第5回理事会

と き:2016年4月23日(土)14:00~17:30

ところ:富坂キリスト教センター1号館

議 案:

- 1) 2015年度の事業報告・決算報告
- 2) 2016年度事業計画・予算
- 3) 会員メーリングリストについて
- 4) その他

5) 評議員会に関する事項

●第1回評議員会 & 中期重点事業中間評価会議

と き:9月26日(土)10:00~17:00

ところ:富坂キリスト教センター1号館

1. 評議員会

1) DEAR 報告

2) 理事候補者選考委員会

2. 中期重点事業の中間評価

・各重点事業の中間評価報告

3. グループディスカッション

・各重点事業に関する今後の進め方

4. その他

6)2015 年度事業評価・2016 年度計画会議

2015年度の事業評価と、2016年度の事業計画を共有し、議論した。

とき:2月13日(土)10:00~16:30

ところ:富坂キリスト教センター1号館

議題:

- ・2015年度事業評価
- ・2016年度事業計画
- ・中期重点事業について
- ・2016年度事業について

7)各種委員会に関する事項

本年度は、次のような各種委員会が理事会内に設置され、当会の運営や事業について協議を行った。(註:各種委員は個人の立場で当会の運営に参加しており、括弧内は本人の勤務先や所属先等を参考までに紹介するものです)

①DEAR大阪運営委員

委員長:佐藤友紀(高校教員)

委員:荒川共生((特活)ボルネオ保全トラストジャパン)／岩崎裕保(帝塚山学院大学)／内田弘志(株式会社拓人)／大森容子((公財)滋賀県国際協会)／談儀善弘(高校教員)／／浜本裕子(YMCA学院高等学校)／榛木恵子((特活)関西NGO協議会)／丸山まり子(地球市民フォーラムなら)／松田道子((財)神戸YMCA)／三輪敦子(国連ウィメン日本協会大阪)／山中信幸(川崎医療福祉大学)

8)プロジェクト・チームに関する事項

本年度は、以下のような研究会やプロジェクト・チームが設置され、各事業や活動の企画運営にあたった。(註:各種委員は個人の立場で当会の運営に参加しており、括弧内は本人の勤務先や所属先等を参考までに紹介するものです)

<中期重点事業>

●重点事業1:「グローバル化と開発問題」研究会の実施

木下理仁(かながわ開発教育センター)、近藤牧子(早稲田大学)、重田康博(宇都宮大学)、田中治彦(上智大学)、湯本浩之(宇都宮大学)、西あい(DEAR)

●重点事業2:公正な社会づくりへ参加するためのアクションの支援

阿部秀樹(会社員)、池田春菜(大学生)、近藤牧子

(早稲田大学)、鈴木洋一・武村佳奈((特活)オックスファム・ジャパン)、田中浩平(団体職員)、前嶋葵((特活)コモンビート)、八木亜紀子(DEAR)

●重点事業3:国内外の開発問題を多様な人たちと話し合う場づくりの支援

阿部眞理子((特活)IVY)、上條直美(フェリス女学院大学)、佐藤友紀(高校教員)、椿原恵((特活)コミュニティコミュニケーション・サポートセンター)、山西優二(早稲田大学)、伊藤容子・中村絵乃・西あい(DEAR)

●重点事業4:教育政策に関する調査・ネットワークづくり

浅川和也(平和教育地球キャンペーン)、上條直美(フェリス女学院大学)、小泉雅弘(さっぽろ自由学校「遊」)、田中治彦(上智大学)、三宅隆史(シャンティ国際ボランティア会(SVA))、本山明(大学講師)、湯本浩之(宇都宮大学)、中村絵乃・西あい(DEAR)

<研究会・プロジェクト・チーム>

①開発教育研究会

a)「グローバル化と開発問題」部会
重点事業1メンバー(左欄参照)

b)「開発教育アーカイブ」部会

田中治彦(リーダー／上智大学)、近藤牧子(早稲田大学)、湯本浩之(宇都宮大学)

②第33回「開発教育全国研究集会」実行委員会

高橋一(北星学園／実行委員長)、宮内泰介(北海道大学／副実行委員長)、松田剛史(ソーシャルベンチャーあんじょう家本舗)、小泉雅弘(さっぽろ自由学校「遊」)、岡田朋子(北海道国際交流センター(HIF))、池田誠(北海道国際交流センター(HIF))、渡邊圭(北広島市立西部中学校)、田中肇(青年海外協力協会(JOCA))、登山慎一(専門学校)、溝渕清彦、大倉綾(青年海外協力協会(JOCA))、平田なぎさ(反貧困ネット北海道)、高見早苗(フェアトレード北海道)、安倍隆(北海道情報大学)、小山田健(ふらの観光協会)、設楽正敏(北海道学校ESD実践研究会)、小林庸子(ガールスカウト北海道連盟)、樋口歩(NPO法人飛んでけ車いすの会)、島田亮祐(NPO法人飛んでけ車いすの会)、菊田融(北海道大学総合博物館)、山内康裕(滝川国際交流協会)、東峰宏紀(北海道開発教育ネットワーク(D-net))、志堅原郁子(NPOピーチハウス)、大木光恵(ガールスカウト北海道連盟)、猪俣一樹(北海道教育大学函館校(学生))、永洞純一(北海道開発教育ネットワーク(D-

net))、小菅千絵(酪農学園大学)、細田孝哉(札幌市立山の手養護学校高等部)、立石喜裕(北海道NGOネットワーク協議会)、米田真琴(新篠津村立新篠津中学校)、西千津、伊藤伸二(エコビレッジ体験塾)、藤原友和(函館市立昭和小学校)、高木晴光(ねおす)、佐藤雅一(北海道YMCA)

③機関誌「開発教育」編集委員会

近藤牧子(特集担当/早稲田大学)、磯野昌子(かながわ開発教育センター)、上條直美(フェリス学院大学)、斎藤聖(高校教員)、奈良崎文乃(国際NGOプラン・ジャパン)、二ノ宮リムさち(東京農工大学)、野口扶美子(ロイヤルメルボルン工科大学大学院博士課程)、中村絵乃・西あい(DEAR)

④「『貧困と開発』簡易版」編集委員会

近藤牧子(早稲田大学)、西あい(DEAR)

⑤アクション・ハンドブック作成チーム

重点事業2メンバー(p.15)参照

⑥『18歳選挙権と市民教育ハンドブック』作成チーム

近藤牧子(早稲田大学)、田中治彦(上智大学)、西あい(DEAR)、藤原孝章(同志社女子大学)、松倉紗野香(上尾市立東中学校)

⑦「開発教育入門講座」チーム

大野のどか(リーダー/公財)横浜YMCA)、定光香(会社員)、向井一朗(桜美林大学)、米田和希子(大学院生)、韓朱仙((特活)コモンビート)、逆瀬川愛貴子(大学院生)、福島智子(桜美林大学)、八木亜紀子(DEAR)

⑧会報「DEARニュース」編集委員会

阿部秀樹(リーダー/会社員)、甲斐和歌子(NGO職員)、片山直美(会社員)、清水千絵(団体職員)、須磨珠樹(会社員)、滝本雅章(DEAR事務局ボランティア)、田中祥一(高校教員)、出口雅子(NGO職員)、菊池哲佳(団体職員)、中島智(大学教員)、松下彩(会社員)、三宅麻子(団体職員)、八木亜紀子(DEAR)

9)職員に関する事項

事務局長 中村 絵乃(有給・常勤・専従)
事務局次長 西 あい(有給・常勤・専従)

事業担当 八木 亜紀子(有給・常勤・専従)
経理・総務担当 大久保 美智彦(有給・非常勤・嘱託)

総務担当 中田 洋子(有給・非常勤・嘱託)
事業担当 星 久美子(有給・非常勤・嘱託)
総務担当 横山 亜紀(有給・非常勤・嘱託)

2016年1月～)
事業担当 伊藤 容子(有給・非常勤・嘱託)
2016年3月～)

10)インターン・ボランティアに関する事項

今年度に事務局で受け入れを行ったインターン・ボランティアは次の通り。

<事務局インターン>

鈴木友也(慶応大学)2015年4月～2015年8月)
藤田真理(早稲田大学、2015年8月～2015年12月)

<事務局ボランティア>

滝本雅章(社会人、2015年4月～2016年3月)
大塚景子(社会人、2015年4月～2015年11月)
石田真理子(社会人、2015年4月～2016年3月)
福島智子(社会人、2015年4月～2016年3月)
青沼由衣(早稲田大学、2015年11月～2016年3月)

また、第33回開発教育全国研究集会には47名、教材体験フェスタには30名のボランティア参加があった。

11)会員団体に関する事項

今年度DEARが会員として参加した団体は次の通り。

<正会員>

- ・(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)
- ・教育協力NGOネットワーク(JNNE)
- ・(特活)「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)
- ・「動く→動かす」
- ・アジア南太平洋基礎・成人教育協会(ASPBAE)

<賛助会員>

- ・(特活)シーズ・市民活動を支える制度をつくる会

以上

資料1： 出版・編集・取材協力など

<雑誌・レポート>

①雑誌『地理月報』(第 544 号)(2015 年 9 月)

発行:二宮書店

内容:静岡県掛川東高校の先生が「シミュレーション教材の導入とその課題～開発教育の視点から」のタイトルで、開発教育の実践についてレポートしている。教材『新・貿易ゲーム』(DEAR)を活用した授業の様子やシミュレーション学習の課題と可能性についての見解が掲載された。

②雑誌『歴史地理教育』(No.840)(2015 年 10 月)

発行:歴史教育者協議会

内容:『歴史地理教育』に高校地理の先生が「農業だけでは生活できない?アグリビジネスって何?」というタイトルで、教材『コーヒーカップの向こう側』(DEAR)を活用した授業の様子や、生徒の感想が掲載された。

③雑誌『ネットワーク』(340 号)(2016 年 2 月)

発行:東京ボランティア・市民活動センター

内容: 職員の八木亜紀子が集録「知って・動いて・考えるー高校生の本音トークから考える市民学習」に「学習の先にあるのは、どんな社会だろう?」をテーマに寄稿しました。「いくつかの学校に関わる中で、目の当たりにするのは、実は、生徒の変化だけでなく、教員の変化だ。『市民学習』はよく『生徒を変える』といわれるけれど、わたしたちは『先生も変える』可能性を感じている。」

<新聞>

①北海道新聞(日高版)朝刊

(2015 年 8 月 11 日)

題目:教員 アイヌ文化学ぶ

内容:8 月 10 日(月)に開催された「開発教育全国研究集会」のオプション・ツアー「二風谷エクスカーション」の様子が掲載されました。

「先住民族との共生や開発途上国の貧困・格差問題などをテーマに札幌で開かれた『開発教育全国研究集会in北海道』(実行委主催)の一貫で、全国から集まった教員ら約 30 人が 10 日、町内二風谷を訪れた。アイヌ民族にとっての有用植物の利用法やアイヌ語を継承していくための取り組みに現地で触れることで、先住民族の文化への理解を深めた」

②北海道新聞

(2015 年 12 月 15 日)

題目:国連新開発目標 道民目線で議論

内容:2 月 13 日(日)に開催された「どうなる!? 『誰ひとり置き去りにしない』新しい地球社会の目標ーSDGsー」(主催:NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」、環境省北海道環境パートナーシップオフィス)の様子が掲載されました。本イベントでは、事務局長の中村がワークショップを担当しました。「講師の NPO 法人開発教育協会(東京)の中村絵乃事務局長は『SDGs は遠い世界の話ではなく、私たちの生活と直結する』と強調し、日本 NPO センター(同)の今田克司常務理事は『SDGs は法的拘束力のない努力目標なので、達成には政府の取り組みを監視する市民の役割が問われる』と指摘した」

<その他>

NHKラジオ国際放送(ベンガル語)

(2015 年 8 月 26 日)

全研ワークショップの様子が放送されました 8 月 8 日(金)に開催された「開発教育全国研究集会」のワークショップ「ゲームで学ぼう! バングラデシュ」の様子が放送された。JICA北海道による教師海外研修(平成 26 年度・バングラデシュ)の成果としてつくられたワークショップ教材で、クイズやゲームなどを通して、バングラデシュの文化や暮らしを楽しく学ぶ、小学校低学年向けのプログラム。当日は、杉本綾乃さん(留寿都村立留寿都小学校)がファシリテーターとなり、小学生から大人まで十数名が参加した。

以上

資料2：「名義後援」の実績一覧(計 7 件)

- ①立正佼成会青年本部
「第46回 青年の日」(2015年5月17日)
- ②独立行政法人国際協力機構
「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2015」(2015年9月～2月)
- ③(公財)日本クリスチャン・アカデミー 関西セミナーハウス活動センター
「2015年度 開発教育セミナー」(2015年7月～12月)
- ④(公財)滋賀県国際協会
「平成27年度 国際教育教材体験フェア」(2015年6月20日)
- ⑤(公財)武蔵野市国際交流協会

- 「夏期教員ワークショップ2015」
(2015年7月29日～7月30日)
- ⑤宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター
「第7回グローバル教育セミナー～アジアにおける社会起業とグローバル教育」(2015年11月5日)
- ⑥特定非営利活動法人WE21 ジャパン フェアトレード学習会
「今日はフェアトレードの日！？～ほんとうにフェアな関係とは？～」(2015年11月21日)
- ⑦(公財)滋賀県国際協会
「平成27年度 国際教育ワークショップ」(2015年12月27日)

以上

資料3:他団体への「賛同」の実績一覧 (計2件)

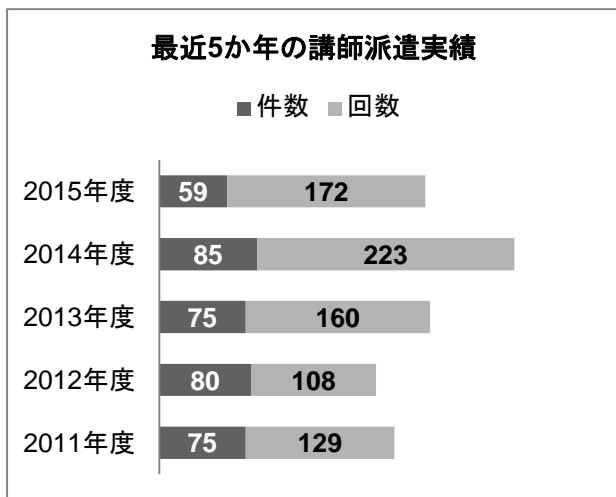
- ①NGO非戦ネット
目的:国際協力・交流活動に取り組むNGOや市民の立場から、武力で平和は作れないという信念のもと、NGOだからこそ発信できる声を市民に届け、市民が広く結集するネットワークをめざす。
期間:2015年7月2日～

- ②「世界食料デー」月間2015 みんなで食べる幸せを
飢餓や食料問題に取り組む国際機関やNGO/NPO、企業や教育機関などが、世界食料デーに向けて実施する企画を相互に協力・広報を行うことで、1人でも多くの人に飢餓や食料問題について知ってもらい、また解決に向けて何ができるのか考え、行動する機会を提供する。
期間:2015年10月1日～31日

以上



資料4: 「講師派遣」の実績一覧 (計 60 件 177 回)



1 「新入生オリエンテーション」 (2015.4.3/計 3 回)

主催: 流通経済大学 龍ヶ崎キャンパス
内容: お互いを知りあう・世界を知る/貿易ゲーム/コンビニゲーム
対象: 新松戸校 新入生
派遣者: 中村絵乃(事務局長)・西あい(事務局次長)・八木亜紀子(事務局員)

2 「新入生オリエンテーション」 (2015.4.6/計 8 回)

主催: 流通経済大学 新松戸キャンパス
内容: お互いを知りあう・世界を知る/貿易ゲーム/コンビニゲーム
対象: 龍ヶ崎校 新入生
派遣者: 中村絵乃(事務局長)・西あい(事務局次長)・八木亜紀子(事務局員)・星久美子(事務局員)

3 「グローバルシティズンシップ科 研修」 (2015.4.7,5.8,10.14,2016.1.30/計 4 回)

主催: 上尾市立東中学校
内容: グローバルシティズンシップ教育、アクティブラーニングに関するワークショップ、コメント
対象: 教員
派遣者: 中村絵乃(事務局長)

4 「Let's Try NGO/NPO」 (2015.4.8,6.20/計 2 回)

主催: 麻布高校
内容: 世界がもし 100 人の村だったら、発表コメント
対象: 高校 1・2 年生
派遣者: 中村絵乃(事務局長)

5 「グローバル・イシュー」 (2015.4.8)

主催: 桜丘中学・高等学校
内容: 地球の食卓
対象: 「クリエイティブ・リーダーズクラス」高校 1 年生
派遣者: 星 久美子(事務局員)

6 「EVAG ファシリテーター養成研修」 (2015.4.24)

主催: 国土防災技術株式会社
内容: パーム油の話
対象: 職員
派遣者: 八木亜紀子(事務局員)

7 「教育担当者研修会」 (2015.5.9)

主催: 神奈川民医連事務局
内容: 参加型ワークショップ
対象: 病院・介護事業所で働く職員の教育担当者
派遣者: 西 あい(事務局次長)

8 「国際教育の学習」 (2015.5.9)

主催: 横浜市立平楽中学校
内容: グローバルエクスプレス
対象: 高校 2・3 年生
派遣者: 井手将夫 (グローバルエクスプレステーム)

9 「ファシリテーション研修」 (2015.5.18)

主催: 大妻中野中学校・高等学校
内容: 地球の食卓・参加型学習の説明
対象: 教員
派遣者: 中村絵乃(事務局長)・八木亜紀子(事務局員)

10 「2015 年度第 1 回国際協力推進員 新着任講習会」 (2015.5.28)

主催: JICA 国内事業部
内容: 入門講座
対象: 着任後 1 年未満の国際協力推進員
派遣者: 西あい(事務局次長)

11 「千教研東総支会 国際理解教育部会 研修会」 (2015.6.4)

主催: 千教研東総支会 国際理解教育部会事業部
内容: 世界がもし 100 人の村だったら
対象: 小中学校の教員
派遣者: 星久美子(事務局員)

12 「SGH ワークショップ」

(2015.6.6,9.12,2016.3.10/計 3 回)

主催: 順天高校
内容: 貿易ゲーム、援助する前に考えよう、など
派遣者: 西あい(事務局次長)・星久美子(事務局員)

内容: 貿易ゲーム
対象: 高校生
派遣者: 星久美子(事務局員)

13 「フィールドワーク国際セミナー」
(2015.6.13/計2回)

主催: 鎌倉女学院高等学校
内容: パーム油の話
対象: 高校1年生
派遣者: 星久美子(事務局員)

20 「平成 27 年度千葉県環境講座『ファシリテーター養成講座』」(2015.7月～9月/計4回)

主催: 小学館集英社
内容: 水のワークショップ・参加型学習
対象: 千葉県在住高校生以上
派遣者: 西あい(事務局次長)

14 「国際理解教育教室」(2015.6.17)

主催: 豊中市立第十六中学校
内容: 世界がもし100人の村だったら
対象: 中学1年生
派遣者: 丸山まりこ(DEAR 大阪運営委員)

21 「国際教育セミナー」(2015.8.4)

主催: 大阪国際交流センター
内容: 開発教育入門
対象: 教員・一般
派遣者: 佐藤友紀(理事)

15 「開発教育・参加型学習の授業」
(2015.7月～12月/計5回)

主催: 横浜学院女子中学・高等学校
内容: 開発教育ワークショップ
対象: 高校生
派遣者: 上條直美(代表理事)

22 「地球市民ワークショップ」(2015.8.20)

主催: YMCA 世界同盟
内容: 世界がもし100人の村だったら
対象: アジアのYMCAメンバー
派遣者: 中村絵乃(事務局長)・星久美子(事務局員)

16 「消費者参画マニュアル作成事業相談員会」
(2015.7.4)

主催: NACS (公社) 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
内容: パーム油の話
対象: NACS 会員
派遣者: 八木亜紀子(事務局員)

23 「いのちをテーマに世界を考える」
(2015.8月～2016.1月/計5回)

主催: フリースペース えん
内容: 身近な問題や世界の問題を参加型で学ぶ
対象: えんに来る子ども、大人
派遣者: 中村絵乃(事務局長)、星久美子(事務局員)

17 「授業 国際理解教育」(2015.7.7)

主催: 文京学院大学
内容: パーム油の話
対象: 大学生
派遣者: 八木亜紀子(事務局員)

24 「JICA 教師海外研修講座」(2015.8.28-29
12.6-7 2016.2.20-21/計6回)

主催: JICA 地球ひろば
内容: 授業づくりなどへのアドバイス
対象: 教師海外研修参加者
派遣者: 中村絵乃(事務局長)

18 「JICA 草の根事業のための参加型開発プロジェクト・サイクル・マネジメントの考え方を学ぶ」
(2015.7.19)

主催: 独立行政法人 国際協力機構 四国支部
内容: 開発教育ワークショップ
対象: 高知県の草の根技術協力事業に関心を持つ人
派遣者: 向井一郎(理事)

25 「じんけんスタディツアー 第2回」(2015.8.29)

主催: 公益財団法人尼崎人権啓発協会
内容: グローバルな視点で社会権を理解する
対象: 尼崎市民
派遣者: 佐藤友紀(理事)

19 「グローバルリーダー養成ワークショップ」
(2015.7.28)

主催: 群馬県立高崎女子高等学校

26 「国際貢献協力セミナー」(2015.9.10)

主催: 岡山県国際交流協会
内容: 援助する前に考えよう
対象: 市民
派遣者: 山中信幸(DEAR 大阪運営委員)

27 「連続公開トークセッション 戦後 70 年 経験を語り継ぎ、私たちがつくる平和」 (2015.9.12)
主催: アジア太平洋資料センター (PARC)
内容: トークセッション ファシリテーター
対象: 一般
派遣者: 八木亜紀子(事務局員)

28 「日本語ボランティア養成講座」 (2015.9.27)
主催: 公益財団法人とよなか国際交流協会
内容: 世界がもし 100 人の村だったら
対象: 日本語ボランティア
派遣者: 佐藤友紀(理事)

29 「アクティブラーニング研修会・授業参観・振り返り」 (2015.9 月～12 月/15 回)
主催: 大妻中野中学校・高等学校
内容: アクティブラーニング
対象: 教員
派遣者: 中村絵乃(事務局長)・八木亜紀子(事務局員)

30 「国際 NGO 論」 (2015.10.14)
主催: 龍谷大学
内容: 世界がもし 100 人の村だったら
対象: 大学生 35 名
派遣者: 佐藤友紀(理事)

31 「東京ガスお客さまサービス部研修会」 (2015.10 月～11 月/計 4 回)
主催: 東京ガスお客様サービス部リビングコミュニケーションセンター
内容: 地球の食卓
対象: 職員
派遣者: 中村絵乃(事務局長)・西あい(事務局次長)・八木亜紀子(事務局員)・星久美子(事務局員)

32 「キャリア教育講演会～自分を見つめ、自分の生き方を考える」 (2015.11.2)
主催: 横浜市立富岡中学校
内容: 講演会
対象: 中学 1～3 年生
派遣者: 星久美子(事務局員)

33 「東南アジア青年の船」 (2015.11.4)
主催: (一財)青少年国際交流推進センター
内容: 新・貿易ゲーム
対象: ASEAN 青年の船参加者
派遣者: 星久美子(事務局員)

34 「ESDJ 座談会」 (2015.11.8)
主催: ESDJ
内容: 座談会での発言
対象: 一般
派遣者: 湯本浩之(副代表理事)

35 「ちよだ国際市民講座 2015」 (2015.11.11)
主催: 千代田区 政策経営部 国際平和・男女平等人権部
内容: 世界がもし 100 人の村だったら
対象: 一般・高校生
派遣者: 八木亜紀子(事務局員)

36 「国際理解教育指導者セミナー」 (2015.11.12～13/計 2 回)
主催: JICA 駒ヶ根
内容: ファシリテーション研修
対象: 教員
派遣者: 西あい(事務局次長)・星久美子(事務局員)

37 「オータムワークショップ」 (2015.11.13/計 2 回)
主催: 神奈川県立横浜国際高等学校
内容: 世界がもし 100 人の村だったら
対象: 高校 1 年生
派遣者: 中村絵乃(事務局長)・星久美子(事務局員)

38 「平成 27 年環境学習リーダー養成講座」 (2015.11.14)
主催: 神奈川県環境科学センター
内容: 参加型ワークショップ
対象: 環境教育に関心のある方
派遣者: 西あい(事務局次長)

39 「International Symposium on Global Citizenship Education」 (2015.11.18)
主催: 韓国教育開発協会 (KEDI)
内容: シンポジウムで開発教育について講演
対象: 教員・一般
派遣者: 中村絵乃(事務局長)

40 「人権フェスタ in うつのみや」 (2015.11.21)
主催: 栃木県宇都宮市役所男女共同参画課
内容: 世界がもし 100 人の村だったら
対象: 教員研修担当者
派遣者: 八木亜紀子(事務局員)

41 「国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト」

(2015.12.18)

主催: JICA 地球ひろば

内容: 高校生作品の審査

対象: 高校生

派遣者: 中村絵乃(事務局長)

42 「誰一人置き去りにしない 新しい地球社会の目標
SDGsの担い手として何が出来るか」(2015.12.13)

主催: 環境省北海道環境パートナーシップオフィス

内容: SDGsワークショップ

対象: 一般

派遣者: 中村絵乃(事務局長)

43 「国際理解プログラム」(2015.12.19)

主催: 川崎市立橋高等学校

内容: 地球の食卓

対象: 国際科2年生

派遣者: 西 あい(事務局次長)

44 「高校生国際協力実体験セミナー」

(2015.12.19~20/2回)

主催: JICA 関西

内容: エシカルな視点で見つめるグローバル社会と私の暮らし

対象: 高校生、教員

派遣者: 佐藤友紀(理事)

45 「世界の入口に立とう とびだせ!高校生2015」

(2015.12.20)

主催: JICA 横浜

内容: 援助する前に考えよう

対象: 神奈川県内の高校生

派遣者: 星久美子(事務局長)

46 「海外研修事前オリエンテーション 異文化体験」

(2015.12.23)

主催: 大阪国際大学

内容: 異文化体験ワークショップ

対象: 海外研修参加者

派遣者: 佐藤友紀(理事)

47 「ワンワールド フェスタ for Youth 食から見る異
文化理解」(2015.12.23)

主催: 大阪国際交流センター

内容: 食から見る異文化理解

対象: 若者

派遣者: 佐藤友紀(理事)

48 「消費者教育講座」(2016.1.16)

主催: 一般社団法人札幌消費者協会

内容: 地球の食卓

対象: 小学校家庭科教員及び社会科教員

派遣者: 星久美子(事務局長)

49 「開発教育連続セミナー第4回」(2016.1.17)

主催: JICA 関西、他

内容: 今世界で起こっていること~パレスチナ、イスラエル問題から

対象: 一般

派遣者: 丸山まりこ(DEAR 大阪運営事務局)

50 「国際理解ワークショップ」(2016.1.19)

主催: 愛知淑徳大学交流文化部

内容: パーム油の話

対象: 大学2・3年生

派遣者: 八木亜紀子(事務局長)

51 「2015 年度生涯学習フォーラム~消費者教育の
現代的意義と課題」(2016.1.30)

主催: 山梨県社会教育振興会/山梨学院生涯学習センター

内容: パネリストとして発言

対象: 社会教育、生涯学習関係者

派遣者: 西 あい(事務局次長)

52 「第2回国際理解教育研修会」(2015.1.30)

主催: JICA 中国

内容: 参加型ワークショップ

対象: 教員

派遣者: 向井一朗(理事)

53 「エコサポーター フォローアップ研修」

(2015.2.6,2.20/2回)

主催: 環境学習情報館 えこっくる江東

内容: 水から学ぶワークショップ

対象: エコサポーター

派遣者: 八木亜紀子(事務局長)

54 「ワンワールド フェスタ『SDGsワークショップ』」

(2016.2.7)

主催: 外務省国際協力局

内容: SDGsワークショップ

対象: 一般

派遣者: 佐藤友紀(理事)

55 「買い物から世界を考えよう 消費者市民社会」
(2016.2.9)

主催: 140 プロジェクト(横浜国立大学)

内容: パネルディスカッション司会

対象: 大学生・一般

派遣者: 西あい(事務局次長)



56 「障害者スポーツフォーラム」(2015.2.14/計 7 回)

主催: (公社)東京都障害者スポーツ協会

内容: お互いを知り合う、パラリンピアンを交えて、障害者スポーツを考えるグループワーク

派遣者: 中村絵乃(事務局長)・西あい(事務局次長)・八木亜紀子(事務局員)・星久美子(事務局員)・韓朱仙(入門講座チーム)・大野のどか(入門講座チーム)・米田和希子(入門講座チーム)

57 「トランスカルチュラルティ・ワークショップ」
(2016.2.27)

主催: トランスカルチュラルティ・ワークショップ事務局

内容: 貿易ゲーム

対象: 立教大学院異文化コミュニケーション研究科修了の社会人

派遣者: 星久美子(事務局員)



58 「ファシリテーター研修」(2016.3.29)

主催: 長浜バイオ大学

内容: ファシリテーション

対象: 大学2年生

派遣者: 中村絵乃(事務局長)

59 「教育課程研究 a、b」(前期、集中) 計 30 回

主催: 横浜市立大学

内容: 開発教育の実践・授業づくり

対象: 大学生

派遣者: 中村絵乃(事務局長)



60 「ファシリテーターの理論と実践 A、B」(前期、集中)
計 30 回

主催: フェリス女学院大学

内容: ファシリテーションについて

対象: 大学生

派遣者: 中村絵乃(事務局長)

講師派遣の様子はスタッフ・ブログ
「DEAR な日々」でレポートしています。
<http://dearstaff.blogspot.jp/search/label/講師派遣>

以上